学校にありがとう

地域と共に歩み、多くの子どもたちを育んできた戸呂町小学校と荷軽部小学校が3月で閉校。4月から山根小学校に併設される山根小学校は慣れ親しんだ校舎に別れを告げました。

児童や地域、教職員から、最後の最後まで愛され続けた学び舎は、たくさんの「ありがとう」とともに、その長い歴史に幕を下ろしました。

（27ページまで）

戸呂町小学校

（4月から山形小学校と統合）

地域一体で教育を進めた山形地区最初の創立校 138年の歴史に幕下ろす

山形地区で最初に開校し、138年の歴史を築いた戸呂町小学校（山本顯校長・児童15人）。3月18日、約150人が見守る中、閉校式典が行われました。

山内隆文市長の式辞などに続き、山本校長は「〝地域全体で子どもを育てる〟ことを実感できる毎日でした。皆さんの胸に、戸呂町小の心が永遠に残ると信じています」と思いを込めてあいさつ。児童は別れのことばで「かしこく・やさしく・たくましく。戸呂町小で学んだこの心を忘れず、新しい明日に向かって旅立ちます」と、ぐっと前を向き、声をそろえました。

校旗返納後は全員で校歌斉唱。思い出をかみしめ、学校への感謝を込めた歌声は、校舎に染みわたるように響きました。

式終了後の思い出を語る会では、閉校記念事業実行委員会の下舘靖委員長が「ありがとう戸呂町小学校」と大きな声で感謝。児童と同窓生が戸呂町神楽を披露したほか、学校の歩みを振り返るスライドも上映されました。

語り合い、思い出を心に刻んだ出席者。多くの人に惜しまれ、愛され、戸呂町小の長い歴史に幕が下ろされました。

1／別れを惜しみながら、校歌を歌いあげる出席者
2／「戸呂町小の心は永遠」と思いを込めた山本校長
3／学校への感謝の気持ちを表した下舘委員長
4／行事や校舎の思い出を振り返りながら、地域と学校に感謝の気持ちを伝えた15人の児童
5／じっと前を見つめ、思いをめぐらせる出席者
6／校旗と、5・6年生が学校への感謝を込めて制作した記念品

戸呂町小学校

創　立　明治7年4月

主な歩み

山形地区で最初に開校。地域の情熱と協力にも支えられ、138年の長い歴史を築いた。

明治35年には大規模火災で校舎焼失の困難も経験。昭和22年から58年までは戸呂町中学校（川井中戸呂町分校）が併設された。

昭和38年には150人以上の児童が在籍。現校舎は昭和64年に完成した。児童が減少してからも、地域一体となった教育振興は変わらず、校内外で積極的な教育活動を展開した。

荷軽部小学校

（4月から山形小学校と統合）

相撲や綱引きなど、特色ある活動で数々の実績 136年の歴史を閉じる

3月24日、荷軽部小学校（小保内悟校長・児童16人）の閉校式典が行われ、約150人が、愛する学校に別れを告げました。

この日のため、懸命に練習してきた荷軽部太鼓を児童が披露した後に開式。山内隆文市長の式辞などに続いて、小保内校長は「学校に対する深い愛情を地域全体から感じました。輝くほどの可能性を秘めた荷軽部小の子どもたちの成長を信じています」と感謝と期待を込めました。

お別れの言葉では、児童が思い出や将来の夢を発表し、「輝く未来を目指して頑張ります」と、大きな声を響かせました。

校旗返納後は、別れを惜しみながらの校歌斉唱。地域の熱い思いと学校の歴史が刻まれた閉校記念碑も除幕されました。

平庭山荘で開かれた思い出を語る会では、閉校記念事業実行委員会の小笠原淳委員長が「閉校はさみしいですが、心から消えることはありません」とあいさつ。出席者は惜別と感謝を胸に、大いに語り合いました。

地域と一体の特色ある活動で、輝かしい実績を残した荷軽部小。最後の最後まで愛され続け、136年の歴史が閉じられました。

1／みんなで練習を重ねてきた荷軽部太鼓。勇壮な響きは子どもたちの成長の証しでもあります
2／「成長を信じています」とあいさつした小保内校長
3／子どもたちの成長に願いを込めた小笠原委員長
4／学校への感謝を込めて全員で校歌を斉唱
5／将来の夢を発表した子どもたちを見つめる出席者
6／愛する学校の歴史と記憶を後世に―。地域の熱い思いが込められた閉校記念碑

荷軽部小学校

創　立　明治8年8月

主な歩み

地域とともに136年の長い歴史を刻み1,260人の卒業生を輩出した。

明治11年には来内分校を設置。昭和28年に現在地に移り、昭和60年、現校舎が完成した。

昭和46年には全日本健康優良学校特選校を受賞。地域一体となり、炭焼きや荷軽部太鼓など地域の特色を生かした活動を展開したほか、相撲や綱引きなどのスポーツでも輝かしい成績を残した。大相撲の二十山親方（本名・谷地仁）は卒業生。